

◆ 4. 第72期第2回研修会報告 ◆

日 時：2022年9月21日（水）14時～15時
形 式：ZOOMを利用したオンライン形式
テーマ：出版情報登録センター（JPRO）での『国際分類』Thema登録方針について
講 師：出版情報登録センター（JPRO） Thema対応部会
参加者：62名

一般社団法人日本出版インフラセンター（JPO）の出版情報登録センター（JPRO）Thema 対応部会事務局よりご提案をいただき、「出版情報登録センター（JPRO）での『国際分類』Thema登録方針について」をテーマに、第2回研修会を工学書協会と共催しました。参加者は工学書協会と併せて26社62名でした。

まず講演会冒頭では、国際書籍分類コード「Thema」について、その起源から各国での導入状況などをご説明いただきました。「Thema」とは2013年にリリースされた国際標準の書籍分類コードで、EDItEUR（書籍・電子書籍における電子商取引のための標準化調整を目的とした国際団体）が管理を行っています。アマゾンジャパンの採用開始もあり、国内実用化が急がれるとのことでした。

販売商業視点から発想されたThemaの分類は細分化・階層化により約7,000に及ぶ詳細な分類コードで構成されています。そのため、書籍登録時の作業負担が懸念されていましたが、JPOでは、既存システムの改修を行い、現在、国内で普及しているCコード、NDCコード等の分類コードやBooksPROでの分類をベースに、ふさわしい分類コードを自動的に推薦してくれるシステムを本年10月より実験的にご提供いただけるとのことでした。本講演では、既刊本を例に挙げて、Themaの構造と併せて、具体的な解説をしていただきました。

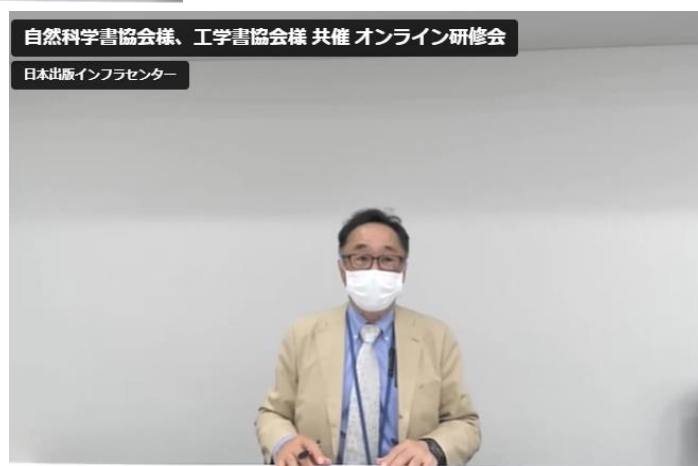
講演会後半では、このシステムがよりスムーズに稼働し、書店・図書館司書の利用も多いBooksProへの情報の反映が進めば、書籍検索時に従来よりも多面的な関連書の提示が可能となり、選書の機会が広がる将来像を提示いただきました。また一方で、出版社に対しては、登録時に困惑する場面が予想されるジャンルや、現在、便宜的につけられているThemaオリジナル分類名の適切な日本語訳の提案などについての協力が不可欠である点についても丁寧にご説明をいただきました。

精確でグローバルな検索網の構築に向けて、Themaの普及と進化が求められている現状と、将来を見据えた取り組みの胎動に、ひとつの転換点を意識させられる講演会となりました。

（研修委員会 片岡 一成：恒星社厚生閣）



「1.開会ご挨拶」JPRO 田中委員長



「2.Thema について」講師 大沼様



「3-1.JPRO 情報発信者の入力方法について」講師 岡野様



「3-2.JPRO 運用方針について」
講師 渡辺様